

4-1. アンケート結果の考察（全体）

◇「はい」と回答した割合が高い項目

- ・ゴミの減量や分別に気を使っている・・・93%
- ・地球温暖化防止を常日頃から意識している・・・79%
- ・高速道路が整備され、生活が便利になった・・・74%
- ・子どもに対して進んであいさつをする・・・78%
- ・日常的に必要な物を市内で購入している・・・72%
- ・市の広報紙に関心を持って読んでいます・・・74%

◇「はい」と回答した割合が低い項目

- ・障がい者にとって暮らしやすい環境が整っている・・・14%
- ・日ごろから文化・芸術活動に参加している・・・18%
- ・学習施設の整備に満足している・・・15%
- ・ホームステイを積極的に受け入れる気持ちがある・・・13%

◇今後の課題として考えられる項目と結果

- ・自然災害に対して非常持ち出し袋等の備えをしている・・・29%
- ・災害時の避難先や対処方法を知っている・・・54%
- ・自己研鑽のため計画的に学習活動を行っている・・・24%
- ・子育てについて、家庭と地域が連携する運動や取り決めがある・・・21%
- ・男女の権利が互いに等しく認められている・・・27%
- ・自分の住んでいる地域に誇りを感じる・・・52%
- ・地域づくり活動やボランティアに参加している（参加したい）35%
- ・週1回以上スポーツ活動をしている・・・20%
- ・子育てに不安をもったことがある・・・68%
- ・老後の生活に不安や心配ごとを感じたことがある・・・65%
- ・家族を含めインターネットを利用している・・・64%

4-2. アンケート結果の考察

産業・雇用

■商業振興の分野で「商店街が魅力づくりのためにがんばっていると思いますか」との問いに対して、「はい」が24.4%、「いいえ」が42.5%であった。「はい」と回答した内訳では地域別に大和が最も高く45.2%、次いで八幡が28.2%、明宝20.6%、白鳥18.1%の順であった。

■消費の分野で「日常生活用品を市内で購入していますか」との問いに対して、「はい」が71.6%と高い値であった。地域別には大和85.7%、明宝82.4%、白鳥78.4%となっているが、美並は30.6%と低い値であり、男女、年代に関わらず同様の傾向であった。美並地域は位置的に美濃市や関市方面で購入しているものと思われる。

■地産地消の分野で、「市内で生産された野菜を優先的に購入していますか」の問いに対して、「はい」が50.0%であった。地域別には前述と同様、美並が21.2%と最も低く、特に美並の50歳代は「はい」が0%、「いいえ」が80.0%と極端な値を示している。なお、日常生活用品及び野菜ともに、高齢になるほど市内で購入する割合が高くなっている。

環境・防災・社会基盤

■環境の分野で、「ゴミの減量や分別に気を使っていますか」の問いに対して、「はい」が93.2%と非常に高い値となった。地域別に大差はなく、年代別にみても20歳代が81.1%、50歳代は96.6%と各年代を通して高い値であった。男女別でも「はい」の回答の割合は、男性89.5%、女性95.8%と大きい差はなかったことから、このことについて意識の定着が図られているものと思われる。

■同じく環境分野で、「この1年間に環境美化活動に参加したことがありますか」との問いに対して、「はい」が58.6%であった。地域別では高鷲と美並が76.5%、次いで大和72.2%であった。年代別には20歳代が21.6%と低く、30歳代47.1%、40歳以上は60%を超えている。若い世代の活動参加が今後の課題である。

■同じく環境分野で、「節電やエコドライブなど地球温暖化防止を常日頃から意識していますか」との問いに対して、「はい」が78.5%と高い値であった。地域別には大差はなく、年代別にも20歳代が62.2%、他の年代は70~80%台と高い値を示した。メディアを通じたキャンペーンの効果に加え、不況による家計の支出抑制の影響も考えられる。

■防犯の分野で、「夜間も安心して出歩くことができますか」との問いに対して、「はい」が52.4%であった。「はい」の回答中、地域別では高鷲63.2%、八幡56.4%、白鳥55.4%の順で高く、和良(35.3%)、美並(36.5%)が低かった。男女別では「はい」と回答した男性が62.0%であったのに対して、女性は46.6%と低く、今後も継続して改善に向けた努力が求められる。

■防災の分野で「自然災害に対して非常持ち出し袋等の備えをしていますか」との問いに対して、「はい」が28.6%と低い値であった。地域別では八幡34.9%、大和31.0%の他は20%台であった。年代別でも20歳代が17.6%、70歳代でも35.8%と、全年代を通じて低い結果であった。今後も引き続き啓発活動が求められる。

■同じく防災の分野で、「災害時のマニュアルによる避難先や対処方法を知っていますか」の問いに対して、「はい」が54.3%と約半数であった。地域別では大和63.5%、美並64.7%、八幡59.7%の順であった。年代別では20歳代が24.3%と低く、年齢が進むに連れて値が高くなり、70歳代は71.7%であった。これについても啓発による周知徹底が必要である。

■生活基盤の分野で、「あなたの周りの生活道路は十分整備されていると思いますか」との問いに対して、「はい」が49.0%と約半数であった。地域別では、大和63.5%、白鳥50.0%、八幡48.0%の順で、明宝(38.2%)、和良(38.2%)が低い値であった。過疎地域はまだ整備が十分でないことがうかがえる。

■同じく生活基盤の分野で、「高速道路が整備され、あなたの生活は以前と比べ便利になりましたか」との問いに対して、「はい」が73.7%と高い値であった。地域別では白鳥80.4%を最高に他の地域も60%~70%台であったが、和良地域は位置的な関係からか47.1%と低い値であった。

■情報基盤の分野で、「あなた、もしくはあなたの家族を含め、インターネットを利用していますか」との問いに対して、「はい」が63.7%と6割強の世帯が利用していると回答があった。地域別にはほぼどの地域も60%台と大差はなかった。また年代別には、20歳代が83.8%と高く、70歳代でも家族を含めるため32.1%と、3軒に1軒の割合で利用していることがわかった。今後は行政からの情報伝達に限らず、双方向での情報通信のツールとして活用方法を検討することが必要である。

■生活スタイルに関して、「三世代が一緒に生活することについて賛成ですか」との問いに対して、「はい」が69.8%と比較的高い値を示した。地域別には概ね60%~70%台であった。年代別では、20歳代で68.9%、70歳以上で66%と若い世代でも同居を支持しているといえる。

健康・福祉

■小学生以下の子どもをもつ親のみを対象に「子育てについて不安をもったことがありますか」との問いに対して、「はい」が67.9%とほぼ3人に2人の割合で不安をもっていたことがわかる。また回答者中、「はい」の割合が男性61.7%、女性76.5%と、女性が14.8ポイントも高いことから、男女間の意識の差が生じている。

■60歳以上を対象に「老後の生活について、何か不安や心配ごとを感じたことがありますか」の問いに対して、「はい」が65.2%と比較的高い値を示した。今後不安や心配の内容について検証していく必要がある。

■社会福祉の分野で、「これまでに家族の介護も含め、福祉活動に関わったことがありますか」との問いに対して、「はい」が47.8%であった。地域別には大差はないが、年代別には20歳代と30歳代が30%台の回答に対して50歳代～70歳以上はいずれも50%を超えている。また男性が37.6%に対して、女性が55.5%と17.9ポイントも女性の割合が高かった。

■障害福祉の分野で、「あなたが住んでいる地域は、障害者にとって暮らしやすい環境が整っていると思いますか」との問いに対して、「はい」は14.1%と低い値であった。地域別では高鷲19.1%、白鳥17.6%、大和16.7%の順で高く、美並(8.2%)、明宝(8.8%)が低い数値であった。今後全市的に改善に向けた取り組みが求められる。

■健康の分野で、「日ごろから健康維持のために何か取り組んでいますか」の問いに対して、「はい」が52.5%であった。地域別では明宝(70.6%)、和良(64.7%)が高く、他の地域は40%台後半から50%台であった。年代別では20歳代から30歳代が30%台後半であり、40歳代から50歳代が40%台、60歳代が63.9%、70歳以上が71.1%と、年齢が進むに連れて健康に留意していることがうかがえる。

教育・文化・人づくり

■生涯学習の分野で、「自己研鑽のため、計画的に学習活動を行っていますか」の問いに対して、「はい」が24.3%であった。この質問についてはどの地域でも平均して20%台であった。また年代別でもすべての年代が20%台で大きい差はなかった。実際は教育委員会や公民館が主催する講座の参加者が一定度あることを考慮すると、「計画的に学習」という設問の捉え方により、比較的低い数値になったとも考えられる。

■同じく生涯学習の分野で、「日ごろから自ら進んで文化・芸術活動(伝統芸能含む)に参加していますか」の問いに対して、「はい」が18.4%と前述と同様低い値であった。地域別では大きい差はなく、年代別でも比較的時間に余裕があると思われる60歳代で「はい」17.0%、「いいえ」76.8%、70歳以上で「はい」22.6%、「いいえ」71.7%とやはり低い値であった。前述の学習活動と同様の傾向が見受けられる。

■同じく、「生涯学習や地域活動の拠点となる学習施設の整備に満足していますか」の問いに対して、「はい」が15.0%と低い値であった。地域別では明宝23.5%、大和23.0%が比較的高く、和良が5.9%と低かった。年代別ではすべての年代で10%台であった。地区集会所が相当整備されていることを考慮すると、学習施設の捉え方が回答に影響したことも考えられる。

■青少年育成の分野で、「地域であいさつ運動が行われていますが子どもに対して自ら進んであいさつをする方ですか」との問いに対して、「はい」が78.2%と高い値であった。地域別では明宝、和良がともに88%で高く、他の地域も70%台後半であった。年代別では20歳代が54.1%、30歳代から40歳代が70%台、50歳代以降は80%台と高く、特に60歳代は87.1%で、あいさつ運動が定着していることがうかがえる。

■子育て支援の分野で、「子育ては家族や地域の連携が大切だと言われていますが、あなたの地域ではそのような運動や取り決めがありますか」との問いに対して、「はい」が21.1%であった。地域別では高鷲、美並、和良が10%台、その他の地域は20%台であり大きい差はなかった。

■スポーツの分野で、「週1回以上スポーツ活動をしていますか」の問いに対して、「はい」が20.0%、「いいえ」が75.2%であった。地域別では白鳥、高鷲が10%台、他の地域は20%台であった。年代別には20歳代から40歳代までが20%台、50歳代から60歳代が10%台、70歳以上が30%台であった。以前に別の調査で「週1回以上スポーツを実施している」が47.8%あったことを考慮すると、今後こうした調査を継続して実施し、実態の把握に努める必要がある。

■国際交流の分野で、「ホームステイなど外国人の宿泊を積極的に受け入れる気持ちがありますか」の問いに対して、「はい」が13.2%、「いいえ」が60.2%であった。地域別の「はい」の回答は、明宝8.8%、和良5.9%、他は10%台であった。年代別では20歳代から30歳代が20%台、40歳代から60歳代が10%台、70歳以上は5.7%という値であった。理由の確認も含めて今後の対応が求められる。

自治・まちづくり

■地域づくりの分野で、「あなたは地域の行事や活動に積極的に参加していますか」の問いに対して、「はい」が49.9%、「いいえ」が41.0%であった。「はい」の回答の地域別では、和良67.6%と高く、他の5地域は50%台、白鳥は36.8%であった。年代別では、20歳代27.0%、30歳代37.2%、40歳代以降は50%台で、年齢が進むに連れて参加割合が増える傾向にある。

■同様に「市民の手による地域づくりの活動や、ボランティア、NPOに参加する市民が増えています。あなたはこうした取り組みに参加しているもしくは、参加したいと思いませんか」との問いに対して、「はい」が35.4%、「いいえ」が31.5%、「わからない」が29.6%とほぼ三分された結果となった。地域別ではいずれも30%台で大きい差はなかった。「はい」と回答した内、年代別では20歳代が43.2%と比較的高く、30歳代以降はいずれも30%台であった。若い世代の意欲を行動へと具現化する取り組みが求められる。

■「自分の住んでいる地域に誇りを感じますか」との問いに対して、「はい」が51.7%と約半数であった。地域別では、白鳥と美並が40%台で他の地域はいずれも50%台で大きな地域差はなかった。年代別では20歳代が62.2%と最も高く、30歳代53.7%、40歳代51.8%、50歳代43.5%と年齢が進むに連れて誇りを感じている割合が減少している。加齢に対して誇りを感じる割合が増えるような取り組みが求められる。

■男女共同参画の分野で、「あなたは男女の権利が互いに等しく認められていると思いますか」の問いに対して、「はい」が27.2%、「いいえ」が32.9%、「わからない」が37.5%であった。「はい」の回答の内、地域別では大和、高鷲が30%台、八幡、白鳥、明宝、和良が20%台、美並が10%台であった。年代別では、20歳代が13.5%、30歳代から50歳代が20%台、60歳代以降が30%で、若い世代ほど不平等であると認識していることがうかがえる。これを男女別に見ると、男性の34.8%が平等と回答しているが、女性は20.2%に留まり、性別による認識の差がある。さらにこれを年齢別に見ると、20歳代は平等であると回答した割合は女性の方が高く、年齢が進むに連れて男性の回答の割合が高くなる傾向にある。50歳代は男性38.0%に対して女性13.9%とその差が大きく開いている。

■広報公聴の分野で、「毎月市が発行する広報紙を、関心を持って読んでいますか」の問いに対して、「はい」が74.0%と高い値であった。地域別では60%台から70%台で大きい地域差はなかった。年代別では40歳代が80.5%と最も高く、20歳代の62.2%を除き、他の世代は70%台であった。特にどのような記事が読まれているかについて、今後検証をしていく必要がある。

■市職員について「窓口対応で職員の言葉遣いや態度はいかがですか」の問いに対して、「よい」が32.5%、「わるい」が7.1%、「普通」が52.4%であった。「よい」の回答中、地域別では明宝が47.1%と最も高く、和良が14.7%と低い。「よい」と「普通」を足した値は和良地域（79.4%）を除く全地域が約85%前後であった。年代別には年齢が進むに連れて「よい」の回答の割合が増える傾向にある。「電話対応」と「職員の説明」についても同様の結果であった。

自由記述（分野別整理）

■今後まちづくりを進めていく上での意見を、自由記述方式で求めた。全回答者864件中、記述ありが372件（43.1%）であった。内訳は「産業・雇用」分野が90件、「環境・防災・社会基盤」分野が117件、「健康・福祉」分野が81件、「教育・文化・人づくり」分野が31件、「自治・まちづくり」分野が87件、「地域振興」分野が60件で、計466件（複数回答があるため）であった。

■「産業・雇用」分野では、若者の雇用対策、企業誘致、商業振興（買い物の便）、農業振興、特産品開発、観光振興等の意見があった。

（抜粋：使っていない田畑を都会の人に貸し出し、シルバーが管理する里親制。フリーマーケットなど、わくわくさせられる場所に若い起業家が挑戦して来るよう支援する。価格の設定が比較的安易な地場産業への集中的な投資を。）

■「環境・防災・社会基盤」分野では、太陽光発電、道路（歩道）整備、自然環境保全、天然記念物保護、不法投棄防止、公共交通、除雪、景観形成、街灯設置等について意見があった。

(抜粋：高校生のバス代支援。京都では町家が若者に人気で、町家カフェも多い。まちの景観の統一。ゴミ袋代を安く。高校に自然環境を学習する科をつくり、郡上の環境を守っていく土台を作る。防災情報をリアルタイムで流してほしい。光ファイバ等情報インフラの整備。)

■「健康・福祉」分野では、子どもが遊べる公園設置、高齢者施設の設置、老後の不安、保育料支援、学童保育、障害者福祉、医療施設等について意見があった。

(抜粋：全地域に放課後児童クラブの設置を。貯蓄型ボランティア制度の設置。自宅介護者への助成金の増額。市民病院で診察中の番号表示を。)

■「教育・文化・人づくり」分野では、図書館、生涯学習、教育費の充実、学校施設、学校統合、文化振興、スポーツ施設等について意見があった。

(抜粋：図書館にベビーカーでも入れるように。学童保育の実施(和良)。子どもに対するIT教育の充実。中高生の学力低下対策。)

■「自治・まちづくり」分野では、経費の節減と財政の健全化、施設の有効活用、人口対策、減税、情報化(CATV)、職員数と待遇、議員定数等について意見があった。

(抜粋：広報紙の回覧板化。会議の夜間開催を。毎週でなくてもよいが各種証明が土・日でも受けられるように。職員OBの社会参加システムづくり。)

■「地域振興」分野では、地域の均衡ある発展と格差是正、イベント振興、地域特性を生かしたまちづくり、過疎対策等について意見があった。

(抜粋：もっと市職員が元気を出すように。地域格差をなくして。不便な地域に目を向けて。マスコミ情報の積極的提供。市全体を考えられる人材育成。)

自由記述(地域別整理)

■八幡：郡上八幡ブランドの有効活用、駐車場不足と日曜閉店による商店街利用の不便さ、八幡図書館の充実(土足、車イス利用)、歩いて楽しいまちづくり、道路舗装(美装化)の見直し、駅周辺の整備、景観の統一、電柱の地中化、観光客のマナー向上、CATV回線の市内統一、町内の案内板をわかりやすく、八幡中の信号機改善(黄色点滅化)、まめバスのルート拡大

■大和：市本庁舎の大和移転、オオサンショウウオの保護、児童館の設置、ぎふっ子カードの利用場所の増、確定申告の受付時間の延長、町づくり委員制度の継続、ふれあいバスの継続

■白鳥：白鳥おどりのPR、曾部地川の両側に植樹を、二日町から前谷までの舗装修繕、退職者の再雇用の問題(物産センター等)、保健センター2階の開放日数の拡大、街灯の設置(為真)、プールやジムの設置、ポイントカードの市内統一、市全体での子育て支援の充実(施設利用料)、民俗資料館の駅周辺への設置、除雪回数が増、野球場の活用、北高通学路の歩道設置

■高鷲：高校生のバス代支援、広報紙の回覧板化、美しいまちづくりのための条例制定、

葬儀場の設置、県道拡幅（鷺見）、サークル活動の場（アレンジフラワー、ジャズダンス、パン等）、インターネットを利用した民宿・喫茶店等の予約とPR、僻地の道路整備

■美並：食料品店必要、商業施設の充実、箱物の福祉関係への転用、老人から子どもまでが集える場所づくり、くじ本から赤池長良川沿い道路の拡張、温泉の優待制度、資源ごみの収集日の増、小中学校の県外学習の復活、郵便はがき・切手販売所の不足

■明宝：獣害対策、中央集中で端の方がおきざりに（健康診断等）、めいほうトンネルの早期実現、家族交流や地域活動に対する部活動の弊害、必要のない市施設の閉鎖

■和良：放課後児童クラブの設置（元教員の指導による空き教室の利用）、保育園・小学校の統合（西和良と和良）、小学校での障害クラスの設置、議員数の増（旧町村毎）、体育館の開放

以 上